第３回旭川市江丹別若者の郷
活性化協議会　資料

江丹別イチイ並木樹木診断結果

１　調査期間　　平成２６年７月８日～１０月３１日

２　調査診断者　　樹木医　内田　則彦

３　診断内容

（１）樹体状況（並木を構成するイチイ木６９本を対象）

①枯死木	２４本
②内部腐朽率５０％以上及び樹勢回復見込みなし	２１本
③成長不良状態のもの	７本
④生育可能なもの	１７本

（２）枯死及び生育不良となった原因

①移植環境の不適合

・イチイは「水松」といわれるほど湿潤な土壌を好み，また耐陰性が強く，やや暗い林の中に純林をつくる特性をもっており，移植地のように街路樹として明るく，かつ，風が強く乾燥しやすい環境は，生育環境として相応しくないこと。

②移植時の準備不良

・樹木の移植の際，必要な根回し作業について，根鉢の大きさが極めて小さく細根の発生が不十分なままで，移植を行っていること。

③植栽方法の誤り

・対象木の全てが基礎地盤の上に盛り土をした高植状態となっており，地中から十分な水分を吸い上げることができない状態になっているとともに，根が十分に成長できない環境となっていること。

結論として，そもそも移植に適さない自然環境であることに加えて，移植までの各工程，移植地の土壌環境等々の悪い条件が重なったことが，その原因と考えられる。

４　今後の対応について

（１）危険木の除去

・調査木６９本中４５本が枯死及び内部腐朽率５０％以上となっており，倒木の危険性が極めて高い。一般市民が立ち寄る機会のあることや周囲が耕作地である状況からも安全確保の観点から，早急に伐採撤去することが必要と考えられる。

（２）危険木除去後の並木再生

・並木の再生に当たっては，現行どおりのイチイによる再生と他樹種による再生の二通りの再生方法が考えられるが，それぞれについて以下のとおり考察する。

①イチイによる再生の場合

・伐採除去したイチイ４５本を新たに移植し直すとともに，生育している２４本について，既存木維持のための対策を講じることが必要であり，その費用としては概ね１６７，０００千円程度が見込まれるが，これほどまでの投資をして街路樹としての機能を維持することの効果，必要性については疑問が残るとともに，そもそも当該移植地の自然環境から見ても，移植後のイチイ成長については不安がある。

②他樹種による再生の場合

・当該地の気候，土壌環境を考慮すると，最適種としては針葉樹では「アカエゾマツ」「プンゲンストウヒ」，落葉樹では「イチョウ」「イタヤカエデ」が望ましいと考えられ，その場合の費用についても一本当たり３５，０００円程度で可能と考えられる。